

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970100560		
法人名	医療法人 恕泉会		
事業所名	グループホーム ひまわりの家		
所在地	高知県高知市塚ノ原33-1		
自己評価作成日	令和3年8月24日	評価結果 市町村受理日	令和4年1月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

災害に備えた避難訓練、炊き出し訓練の実施 当施設から併設へと拡大し、今後は近隣の住民、商店の協力を得る 今後あり得る災害に備え命を守る、助け合う施設であるべく行動しています。
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JiyosyoCd=3970100560-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JiyosyoCd=3970100560-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和3年11月26日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成12年、介護保険制度発足と同時に設立された県内でも先駆的な認知症高齢者向けグループホームで、「自立心を大切に健康で明るく、その人らしい生活が送れるように支援する」という理念を、職員一丸となって実践している。 1ユニットながら2階建ての建物は広く、1階にはリビングのほか地域との交流スペースがあり、地域住民も加わったいきいき百歳体操や、ボランティアによるピアノ演奏の音楽療法が毎週開催されている。居室のある2階への移動は、エレベーターを完備しているにもかかわらず、利用者の歩行能力の低下を防止する目的で車いす利用者を除き階段が使用されているほか、談話室が設けられて、夕食後2階に上がった利用者が一緒にテレビを観て談笑するなど、利用者本位のつくりとなっている。 地域との交流も大切にしており、例年5月に隣接する母体法人運営の介護老人保健施設と共催するさつき祭をコロナ禍で11月に延期し、規模を縮小し家族だけ招いて開催したところ、10数名の近隣住民が聞きつけて自然に集まってくれた。
--

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念は施設内に貼り出しており、理念に基づく方向性を職員間でも意見交換して、理念からぶれないケアを心掛けている。	職員は、毎月の職員会で理念がケアに実践されたかの振り返りを行っている。業務に忙殺され、利用者への思いやりに欠ける職員の言動が見られたときは、管理者が、一呼吸おいて利用者 と接するよう指導している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、コロナ禍の中でも、可能な限り百歳体操、移動販売、防災訓練参加等を通じて地域との交流している。	町内会に加入し、地域の防災訓練に利用者と一緒に参加する等、地域の一員としてのつながりを大切にしている。利用者 と顔見知りの地域住民も多く、散歩時に出会うと気軽に挨拶を交わし、会話を楽しんでいる。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症予防について講演するなど、認知症の理解促進に取り組むほか、百歳体操を通じた利用者との関わりから、理解につながるよう心掛けている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議は開催できていない。家族には、電話等で状況報告と意見の聞き取りしている。	コロナ禍で昨年来運営推進会議は開催されていない。通常のメンバーは家族、地域包括支援センター職員、民生委員となっているが、議事録を見る限り家族以外の外部メンバーの参加がないときが多く、内容も報告中心となっている。	メンバーに市介護保険課職員のほか、地域防災組織の代表者等の地域住民を幅広く加えるとともに、報告だけでなく、事業所の課題等を議題とし参加者の助言を得て、双方向的な会議となることを期待する。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、高知市介護保険課に必要な質問や助言を求めて電話している。	地域包括支援センター、市介護保険課とは、事業所運営の様々な点で情報共有をし、助言を得てきており、協力関係にある。コロナ禍で、事業所の属する市西部地区グループホーム連絡会が開催されていないなど、対面する機会は減っている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない、させないが母体法人の理念で、職員教育を徹底している。身体拘束がどういふものなのかについて、母体法人開催の勉強会で学ぶ場を設けている。	玄関は夜間のみ施錠で、一人で外に出る利用者がいても、職員が付き添って周辺を散歩した後に戻る等、利用者の行動は制限していない。居室にはコールボタンの設置のみで、センサー類はまったくない。管理者は職員のスピーチロックに注意しており、間接的にも身体拘束となる行為がないようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会で学んでおり、虐待はしないことはもちろん、させない、発見すれば通報義務があることを職員に周知徹底している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用する利用者があり、介護支援専門員からの情報提供書と共に、司法書士もカンファレンスに参加して、現場で学ぶ機会がある。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が直接説明した上で、理解と納得を得て同意書への署名を得ている。法改定などで必要なときにも必ず、同様にして契約変更を行っている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱をしている。利用契約約款にも相談窓口を記載している。	意見箱にはほとんど意見は入らないものの、年2回の家族会(コロナ禍で休止中)では家族だけで話し合う時間を取っているほか、運営推進会議や来訪時に家族からの意見を積極的に聞いている。個別のケアに関することが多く、ケアプランに取り入れている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間3回以上の面談や、日々の業務で職員の要望を聞いている。毎月の職員会の中でも、働きやすくするよう、改善に向かうよう、心がけており、実現された要望も多い。	管理者は、個人面談の場や職員会、日常業務の中で職員から意見を聞き、可能な限り取り入れている。利用者に対するケアの工夫や、備品購入の要望等、様々な意見、要望が寄せられている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談では人事考課シート、人事考課シートを取り入れ、職員個々の状況把握をしている。36協定を締結し、時間外勤務を抑制している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施し、職員個々に合ったオンライン研修ができるよう、勤務シフトを作っている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知県地域密着型サービス協議会などのオンライン研修や、会場で交流できる機会を設け、技術や知識の意見交換の場を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が当事業所入所を希望しているかについて把握し、直接面談や情報提供書で家族、本人の要望、意見を聞いている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報提供書や家族、本人の要望意見書を把握し、要望が取り入れられ、納得を得てから、介護サービス計画書に同意してもらっている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な場合は利用体験を薦めたり、本人と会って身体機能や認知機能を把握するよう努めている。 他のサービスについては、担当の会議支援専門員の方と意見交換している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意欲や身体機能維持ができるよう、必要以上の介護は極力見守りに代え、本人の自立支援につなげられるよう努め、共に行う作業や共に過ごす家を意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中、面会、外出、電話等での家族とのつながりを大切に、関係維持に努めている。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会に制限がある中、馴染みの地域、店に向いたり、ドライブしたりしている。	利用者馴染みの近所の喫茶店と一緒に昼食弁当を買いに行くことを最近再開したほか、コロナ禍中も自宅周辺に立ち寄りしたりして、馴染みの関係の維持に努めてきた。コロナ禍前には友人、知人の来訪も多く、事業所は歓待していた。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者同士の関係性を見ており、気の合う利用者同士で過ごせるよう場面を配慮をし、必要に応じて配席替えも行っている。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の後も家族と一緒に百歳体操を行うほか、事業所への訪問もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室などの別室で個別に関わることで、利用者一人ひとりの要望や意思を聞き取り、検討会等で話し合っサービス計画に取り入れている。	日々利用者と接する中で、職員は積極的に利用者の思いや意向の把握に努めている。把握した内容はカンファレンスで出し合っ記録に留め、その大半はケアプランに取り入れられている。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供を台帳にファイルし、職員全員で共有して、把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、一緒に過ごしケアする中で、バイタルサインや表情、顔色、歩行状態、排泄状況を把握することで、変化に一早く気付くよう努めている。専用アプリでのアセスメントも、日々入力している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度サービス担当者会、カンファレンスを開催し関係者から情報、意見の聞き取りをして、サービス計画に反映するようにしている。	カンファレンスには家族と職員全員が参加し、計画作成担当者作成のケアプランの内容を協議している。定期的な見直しは3ヶ月に一度だが、利用者の意向や状況に変化があれば、その都度見直しを行っている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録専用アプリを取り入れ、記録からその場面のアセスメントが入力でき、サービス計画に活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の精神状況により入浴の曜日を本人の希望日に設定するなどのサービスに取り組んでいる。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員と連絡をとり、商店に注文して商品を受け取り、警察、消防にも利用定員と認知症高齢者であることを報告をしている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	往診、医療機関への受診対応を積極的に行い、利用者の日々の情報提供をすることで、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医は利用者、家族の要望に合わせており、5名が職員同行で近接する協力医を受診しているほかは、家族同行で他の医療機関を受診している。緊急時には、全員がまず協力医を受診し、医師の判断でその後の受診先を決めている。協力医からは、24時間対応の協力が得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問があり、健康管理や助言指導を受けている。24時間いつでも電話連絡が取れるよう連携している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時から病院に出向、き医師、看護師、ソーシャルワーカーと治療方針や退院時期についてのカンファレンスを行っている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約の際に説明をし、必要な場合は医療機関、家族、本人と共に方針と計画を立てて支援に努めている。	看護、医療とも協力医の24時間即応体制があり、職員も研修を受け、看取りは可能であるが、本人が重度化する前、その兆候が見られた早い段階で主治医を交えて家族と今後の対応を協議し、入院、特別養護老人ホームへの入所等がなされ、実際にはこれまで看取りが希望された事例はない。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昼夜問わず利用者急変時には、マニュアルに沿って必要な初期対応を行うとともに、医療機関と連絡を取り、指示を受けている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難計画を定め、避難訓練を行い、実践の場で行動ができるよう努めている。地域住民との会に参加し、防災倉庫の確認や今後の訓練に向け準備をしている。	近接する協力医、母体法人運営の介護老人保健施設との共同で年3回、うち1回は消防署の立ち合いを得て、各種防災、避難訓練を実施している。地区の防災訓練には利用者と一緒に参加してきているが、事業所の防災訓練には地域住民の参加がない。	地域住民の事業所防災訓練への参加を実現し、日ごろから災害時の地域との協力関係を築いていくことを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室で要望意見を傾聴し、思いを尊重している。	本人の生活歴に応じて、名前で呼ぶ際にはさん付けで呼び、馴れ合いとはならないよう注意している。利用者から教えられることも多く、職員は人生の先輩として利用者と接している。トイレ誘導時のさりげない声かけ等、利用者のプライバシー保護に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の朝食、衣服、飲料、行動の中で、本人の自己選択、自己決定ができるよう努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時などの個々の起床時間に合わせて、朝食対応をしている。入浴時間についても、個人の都合と希望を聞き、本人のペースを優先している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室の利用を促し、アクセサリーの使用を支援して、清潔な衣類を着用できるようにしている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はパン食、米食のどちらも選べられるようにし、その他の食事でも利用者の要望を取り入れるように努めている。管理栄養士からの助言を受けて、献立の工夫や調理技術の工夫をしている。	メニューは固定化せず、希望を聞いて利用者と週3回スーパーで食材を買って、調理も下ごしらえ等を利用者と一緒に行っている。昼食に弁当を取り入れる等の変化をつけることにも留意している。今年度からは、協力医の管理栄養士に栄養面の助言をもらっている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士から助言を受け、チェック表を活用して水分摂取量、食事量の把握に努めている。水分補給では、ゼリー活用などの工夫をしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医の歯科衛生士による訪問治療で、口腔ケアの支援を受けている。利用者への口腔ケアの促しと、義歯の消毒を徹底している。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの時間に合わせたトイレ誘導を行い、1回でも多くトイレで排泄できるよう支援している。	オムツの使用者はおらず、リハビリパンツ6名、布パンツ3名で、吸収シートを併用している。尿意があり自分でトイレに立つ利用者が5名おり、残りの4名は各々の排泄パターンに合わせてトイレ誘導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者は、水分、食物繊維の摂取はもちろんのこと、毎日の体操で適度に体を動かしている。下剤についても医師に相談し、適量からの服用ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者にもその都度確認し、本人に適した時間に合わせて入浴ができるよう心掛けている。入浴剤を入れ、入浴方法なども一人ひとりに合わせて対応している。	毎日の入浴にも対応するが、週3回入浴の利用者が多い。入浴すると不穏になる利用者が1名おり、清拭で対応することが多い。入浴剤は本人の希望に合わせて4種類を使い分け、ゆず湯や薔薇湯も楽しんでもらっている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も居室に戻り休む利用者もいる。個人の自由であり、安心して休めるよう室温管理、定期巡視を行っている。夜間も就寝時間は本人が決められるように努めている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報、服薬を個々に分けて保管し、随時確認できる状態にしてある。服薬の変更時には、副作用がないか観察に努めている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室内、屋外の行事や、ドライブなど、利用者一人ひとりの要望や、意欲に合わせて支援を行っている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により買い物等の外出はできていない。家族と眼鏡修理で外出したり、ドライブに出かけるなどの外出支援となっている。	コロナ禍も落ち着き、散歩がてら近隣のスーパーに買い物に行く利用者が多い。リビングの前には広いテラスがあり、外気浴にも活用している。職員が人出の少ない穴場を探し、利用者と花見等のドライブに出かけていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な場合は預かり金をから支払いを行っている。利用者によっては、少額を所持して安心につなげている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で電話する頻度は増えた。事業所の「ひまわり通信」を毎月送付し、写真付きで利用者の様子が分かるようにしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの色合いを配慮し、開放感ある大きな窓の明るいリビングで、利用者がソファに座ってリラックスできる空間づくりをしている。教室では、知人や家族の写真を貼る等、環境作りに努めている。	南向きのリビングは明るく、広いスペースに利用者同士で会話ができるよう配置した複数のソファが置かれて、利用者はゆったりと過ごしている。壁には装飾もなくシンプルだが、これは、以前季節に合わせて行っていた飾りつけを嫌う利用者が出てきたため、中止したことによるもの。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングにはリラックスチェアを用意し、利用者が自由に座れ、2階では談話室のソファで過ごすこともできる。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの家具の持ち込みを薦めている。居室を心地よく、リラックスできる空間として使用してもらっている。	入所時に利用者の使い慣れたものの持ち込みを依頼しているが、あまり持ち込まれない。居室は洋室だが、照明は昭和の時代を思わせる和風のもので、自宅生活を彷彿させる。家族写真やテレビを置き、シンプルながらも個性に合わせた居室となっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内板等を貼り出し、必要な環境設定をしている。利用者が自立した生活が送れるよう支援している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない